

○ 本校の概要

◇児童数773名(10月31日現在)、24学級、特別支援教室(サポートルーム)拠点校。 ◇令和4年度に学校運営協議会を設置。大田区コミュニティ・スクールとして、地域の教育力を生かした特色ある学校づくりを推進。
 ◇令和6年度開校85周年に際し、記念集会の実施、記念誌の発行、記念写真・航空写真の撮影。 ◇校舎改築工事中、令和6年度1学期に「思い出プロジェクト」として校舎内壁面にペイントを実施、2学期より仮設校舎へ移転。
 ◇校長1、副校長1、主幹教諭2、指導教諭1、主任教諭10、主任養護教諭1、教諭21、時間講師8、事務2(補助員を含む)、栄養士1、特別支援教室専門員1、スクールカウンセラー2、副校長アシスタント1、読書学習専書1、教員支援員1、学校特別支援員1、学校特別補助員1、(民間委託)用務員、児童誘導員、施設管理員、給食、ALT) ◇PTA活動、馬三イベントサークル(仮)、読書ボランティア、スクールサポート、同窓会活動が盛んで、児童の健全育成にすすんで関わっている。
 ◇大田区独自教科「おおたの未来づくり」研究実践校、研究主題:地域と共に未来を創造する児童の育成～教科「おおたの未来づくり」における最先端技術を用いた社会への貢献～ ◇学区内に7町会、学校に対して非常に協力的で地域力が高い。
 ◇たてわり班給食や遊び、きょうだい学年などの異学年交流を通して、集団や社会における人間関係形成力の向上を図る。 ◇全校詩集「いおうた」の作成。
 ◇体力・運動能力の向上「一校一取組」では、新しい縄跳びカードとそれに伴う検定制度の下、短縄跳びと長縄跳びを活用。 ◇校外施設(屋内プール)におけるインストラクターによる水泳指導。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価	人数
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来し 社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4: 全て80%以上	学校評価児童アンケート「日常的にタブレットを学習に活用している」において肯定的な評価をした児童の割合	A			
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。						
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。						
②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 全て70%以上	学校評価児童アンケート「タブレットは『学習用タブレットのしおり』を守って使っている」において肯定的な評価をした児童の割合	B				
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 全て60%以上	学校評価保護者アンケート「お子さんは、タブレットやゲーム、携帯電話、SNSなどの使用について、家庭で決めた約束(時間や使い方など)を守っている」において肯定的な回答をした保護者の割合	C				
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
お世個 お界別 たと目 を標 担な2 うが 人 材 を 際 育 都 成 市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4: 全て80%以上	学校評価児童アンケート「東京都や大田区の特徴、馬込地域について学ぶことは楽しい」において肯定的な評価をした3・4年児童の割合	A			
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。						
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。						
②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 全て70%以上	学校評価児童アンケート「日本の伝統や文化、東京都や大田区の特徴、馬込地域について学ぶことは楽しい」において肯定的な回答をした5・6年児童の割合	B				
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 全て60%以上	全国学力・学習状況調査「将来、積極的に英語を使うような生活をしたか職業に就いたりしたいと思う」において肯定的な評価をした6年児童の割合	C				
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
た一個 め人別 のひ目 基と標 礎り3 とが な個 性 力と を育 力 成を し発 揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4: 全て80%以上	学校評価児童アンケート「学習した内容はわかった」「運動が好きです」「自分にはよいところがあると思う」において肯定的な評価をした児童の割合	A			
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。						
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。						
②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 全て70%以上	学校公開保護者アンケート「学習内容は、こどもたちによくわかるものであった」において肯定的な評価をした保護者の割合	B				
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 全て60%以上		C				
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	1: 全て60%未満		D				
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								

学 校 別 力 目 標 4 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	学校評価児童アンケート「楽しく学校で過ごしている」において肯定的な評価をした児童の割合	4: 全て80%以上	A										
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 全て70%以上											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。				2: 全て60%以上									
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					1: いずれかでも60%未満								
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。						学校公開保護者アンケート「こども同士が話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりしていた」「教師がこどもたちのよいところを認める場面があった」において肯定的な評価をした保護者の割合	2: 全て60%以上						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。													
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。													
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。								学校評価児童アンケート「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できる」にいて肯定的な評価をした児童の割合	1: 70%未満				
			3: 80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。													
			2: 60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。													
			1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。													
た 自 個 め の ら 目 標 5 学 び を い き 支 援 し ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	学校評価児童アンケート「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できる」にいて肯定的な評価をした児童の割合		4: 90%以上							A			
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上90%未満											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 70%以上80%未満										
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				1: 70%未満									
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。					学校評価保護者アンケート「学校は、避難訓練を含む安全指導や健康教育の推進に努めている」において肯定的な評価をした保護者の割合	2: 70%未満							
			3: 80%以上100%未満の教員が回答した。													
			2: 60%以上80%未満の教員が回答した。													
			1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。													
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。							学校評価保護者アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働して、教育活動を実施している」において肯定的な評価をした保護者の割合	1: 70%未満					
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。													
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。													
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
安 心 な 学 習 環 境 を 学 び の 場 と す る と 同 じ に 、 児 童 ・ 生 徒 の 安 心 ・ 安 心 を 向 上 さ せ る た め の 教 育 を 推 進 し ま す 。	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	学校評価保護者アンケート「学校は、避難訓練を含む安全指導や健康教育の推進に努めている」において肯定的な評価をした保護者の割合								4: 90%以上	A			
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上90%未満											
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 70%以上80%未満										
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。				1: 70%未満									
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。					学校評価保護者アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働して、教育活動を実施している」において肯定的な評価をした保護者の割合	2: 70%未満							
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。													
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。													
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													
		核 心 と し て の 学 校 と 地 域 の 連 携 ・ 協 働 に よ る 地 域 コ ミ ュ ニ ティ の	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。							①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	学校評価保護者アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働して、教育活動を実施している」において肯定的な評価をした保護者の割合		4: 90%以上	A	
											3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 80%以上90%未満		
											2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。					2: 70%以上80%未満
											1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			学校評価保護者アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働して、教育活動を実施している」において肯定的な評価をした保護者の割合						2: 70%未満						
	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。															
	2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。															
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				学校評価保護者アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協働して、教育活動を実施している」において肯定的な評価をした保護者の割合	1: 70%未満										
	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。															
	2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。															
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。